

平成 23 年度 京都大学前期ポケット・ゼミ「情報源を読み解く」概要

◆ 各回の内容など（月曜 2 限。ほぼ各回に課題を課した。期末課題とあわせて評価）

回・日	テーマ	内容
#1 (4/17)	オリエンテーション	履修者の所属学部や関心を確認しつつ、授業のねらいや概略を説明する。最初の課題として「リサーチ・ナビ」(国立国会図書館)を調べさせ、履修者のテーマでどのような文献が挙がるかを確認させる。
#2 (4/25)	「情報源の構造」の確認	図書(新書 vs. 専門書)、雑誌(一般雑誌 vs. 学術雑誌)やその記事、新聞など、情報源の種類ごとの特徴や、「時間の流れ」などを意識させる。
#3 (5/2)	図書館における資料探索の基礎	京大の KULINE のほか、WebcatPlus、新書マップなど各種 DB を紹介し(分類にも少し触れる)、「図書館での図書の探し方」を説明する。
#4 (5/9)	事典類の活用	事典類の特徴や「使い方」を理解させる。授業内で JapanKnowledge を実習させたが、課題には「紙の事典の調査、JapanKnowledge との比較」も含めた。
#5 (5/16)	論文の検索	「図書と論文とは別物であり、探す手段も基本的には別々」という点を強調しつつ、CiNii、Google Scholar などの論文 DB を紹介し、実習させる。
#6 (5/23)	論文を読む(1)	「論文の構造・型」(標題・抄録などの「カタログ情報」、本文、引用・参照文献リスト)を説明。特に「引用」の重要性について、引用・参照文献リストの書き方の基準(SIST02)も参照しながら説明。
#7 (5/30)	論文を読む(2)	「引用・参照のしかた」に焦点を当てつつ、論文を読むためのポイントを説明。あわせて論文のバリエーション(レビュー論文、学位論文)なども説明。
#8 (6/6)	論文からレポートへ／インターネット上の情報源	第 6・7 回での「論文の読み方」を踏まえ、レポートを書くための注意点(感想と事実・意見との区別、引用の仕方など)を説明。また、インターネット上の情報の信頼性を評価するためのポイントや、国立国会図書館での各種情報源を紹介。
#9 (6/13)	統計をめぐって(1)	統計データを用いる際の注意点や、実際の情報源(日本の公的統計を紹介し、またウェブ上の各種情報源の活用法を実習させる。

#10 (6/20)	統計をめぐって(2)	OECD iLibrary (統計データ等については要契約、京大で利用可) 上にある統計データについて、データの加工・表示の仕方を含めて説明・実習。
#11 (6/27)	新聞等の情報源	各種の新聞 DB について、広告の検索機能や時期の違いの確認など、活用法・留意点を説明しつつ実習させる。また一般雑誌記事 DB (MAGAZINEPLUS など) についても若干説明。
#12 (7/4)	総まとめ (その 1)	これまでの授業内容につき、「情報源の構造」「時間差」に特に留意しつつ復習。
#13 (7/11)	総まとめ (その 2)	受講者各自が今後勉強したいテーマを改めて確認しつつ、期末課題について説明。

* 期末課題は以下の通り。

- [1] テーマをまず決め、「レポート的なアウトライン (目次)」をつくる。それに沿って、(今までの課題ミニレポートで扱ったもの、そうでないものを含め) 関連する情報源を整理・要約し、リスト化する。
- [2] [1]の作業を通じ、あるいはこのポケゼミ全体を通じ、「入学前は意識しなかったが、今の段階で意識できるようになった点」「まだよく分からない点」について気づいたことをまとめる。
- [3] このポケゼミの感想、役に立った点、改善すべき点などを自由記述。(採点対象外)

* 履修者 10 名。うち、最終的に合格し単位を取得した者は 5 名。